

療養援助技術論

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・土田 幸子

科目担当者（職位・氏名）：教授・永井 睦子、助教・野中みつ子、助教・山田 英子
助教・武田恵梨子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：50

■ 授業概要

診療（治療・検査）に伴う援助技術について、科学根拠及び理論的根拠を踏まえて基礎的な知識と、侵襲を伴う技術を安全・安楽に提供するための原理原則を教授する。

具体的には、感染管理とスタンダードプリコーションに伴う技術、滅菌操作および創傷処置に伴う技術、吸引、酸素吸入、採血等検査に伴う技術、与薬に伴う技術について、講義における知識と演習における技術を統合した基礎能力を養う。

■ 到達目標

1. 診療（治療・検査）における看護職の役割と責務について理解し、説明できる。
2. 診療（治療・検査）に伴う援助技術を安全・安楽に実施するために必要な科学的根拠を理解し、説明できる。
3. 診療（治療・検査）を受ける対象者の状態をアセスメントし、診療（治療・検査）に伴う苦痛に配慮し、安全で安楽な診療（治療・検査）に伴う援助技術を実施できる。

■ 教育内容

基礎看護学

■ キーワード

身体侵襲、治療、検査、感染管理、科学的根拠、アセスメント

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	授業ガイダンス 診療過程における看護の役割と責務	授業ガイダンス 診断・治療の過程とは、 診療に伴う看護の役割と責務 【講義】	土田
2	呼吸を楽にする技術	呼吸の生理学的メカニズム 呼吸を楽にする援助技術 【講義】	野中
3	呼吸を楽にする技術	2 グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要項 を確認すること) 【演習】	共同
4	酸素吸入、吸引		
5	感染予防を推進する技術	消毒や滅菌の知識とその扱い、感染予防を含 めた感染管理 創傷管理について 【講義】	山田
6	【演習】	2 グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要項 を確認すること) 【演習】	共同
7	感染予防を推進する技術		
8	無菌操作、滅菌物の取り扱い 創傷処置、包帯法		
9	食事・栄養摂取を促す技術	栄養状態のアセスメント 非経口摂取方法とその援助技術 【講義】	武田
10	経管栄養法の管理	2 グループに分かれて演習を行う。	共同
11		経管栄養中の患者の口腔ケア 【演習】	
12	排泄を促す技術	自然排泄（排尿・排便）が困難な場合の援助 技術 【講義】	山田
13	一時的導尿、浣腸	2 グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要項 を確認すること) 【演習】	共同
14			
15			
16	与薬を安全に行う技術①	与薬における看護と法律 与薬のための基礎知識、経口与薬 【講義】	土田
17	与薬を安全に行う技術②	注射法（皮下、皮内、筋肉内、静脈内） 点滴静脈内注射 【講義】	土田

18	与薬を安全に行う技術	2 グループに分かれて演習を行う。(スケジュール等の詳細は配布する演習要項を確認すること) 【演習】	共同
19	皮下注射、筋肉内注射		
20	与薬を安全に行う技術	2 グループに分かれて演習を行う。(スケジュール等の詳細は配布する演習要項を確認すること) 【演習】	共同
21	静脈内注射、点滴静脈内注射		
22	検査・治療を安全に行う技術①	臨床検査の意義と看護者の役割 検体検査の種類と援助、検体採取(採血) 【講義】	武田
23	検体検査を安全に行う技術	2 グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要項を確認すること) 【演習】	共同
24	静脈血採血		
25	<実技テスト>	3 グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要項を確認すること) 【演習】	共同
26	静脈血の採取		
27	検査・治療を安全に行う技術②	生体検査の種類と援助 【講義】	土田
28	統合学習 ・身体的状態についてアセスメント	看護過程での事例の身体的状態についてアセスメントする。各自が立案した観察計画に基づき実施する。(個人ワーク:ヘルスアセスメントの復習をグループで確認後実施となる) SCENARIO、フィジコを用いたシミュレーション学習もなる。 実施要項は別途掲示する。 【演習】	共同
29			
30	まとめ	診療(治療・検査)を受ける対象者が抱える苦痛を理解し、苦痛に配慮するために看護実践者として必要なことは何かを考える。 療養援助実習に向けての課題を明らかにする。 【グループワーク】	土田

■ 履修条件

生活援助技術論を履修していること。

■ 成績評価方法

期末試験 70%、事前学習課題 20%、実技試験 10%、により総合的に評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・事前学習ワークシートのフィードバックは、コメントを付して行うとともに、質問欄に記載のあった内容については解説をする。
- ・各演習では、教員による技術チェックを受け、最後に学生個々にフィードバックを行う。教員によるは再チェックを行う場合もある。
- ・期末試験は、希望者に対してフィードバックを行う。希望者は、再試験の対象、非対象に関わらず、再試験日以降2週間以内に、科目責任者へメールにてアポイントをとること。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
20巻 基礎看護学 ③ 基礎看護技術Ⅱ
22巻 基礎看護学 ⑤ 臨床看護総論

■ 参考書・参考資料等

- ・必要時、授業内で提示する。
- ・授業前にワークシート（事前学習課題）、演習前に演習要項を配布する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・講義授業は1時限につき、事前・事後学修時間として90分、演習授業は1項目の授業につき、事前・事後学修時間として180分程度を必要とする。
- ・事前学修：ワークシート、自己練習、指定された事前学習
- ・事後学修：自己評価、復習、自己練習

■ 担当教員からのメッセージ

この科目で学習する技術は、科学的根拠を踏まえた正しい知識の修得がなければ、患者の安全を脅かす可能性のある技術です。1年次で学んだすべての知識と技術、生活援助実習で学んだことを活かし、確実な技術の修得を目指しましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 16、takeda★iwate-uhms.ac.jp、事前にメールで教員の予定を確認してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の实務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

看護師

■ 実務経験を活かした教育内容

各教員が病院での臨床経験を活かし、臨床における看護技術に関する専門的で実践的な講義・演習を行っています。